

会 議 録

- 1 会議の名称 川根本町総合計画検証委員会（第1回）
- 2 会議日時 令和6年12月6日（金） 午後3時00分 から
午後4時35分 まで
- 3 開催場所 川根本町役場本庁舎 3階会議室
- 4 出席した者の氏名
（1）委 員 小泉祐一郎 委員長、山下富士夫委員、戸塚崇委員
高本勝義委員、駒井宗子委員、森下稔男委員、澤本等委員

（2）執行機関 （事務局）経営戦略課
課長 坂下誠、まちづくり推進室 室長 大村一成
主幹 櫻井久美

（3）傍 聴 人 なし
- 5 議題
（1）総合計画・総合戦略の検証について
（2）その他
- 6 会議資料の名称
① 令和6年度第1回川根本町総合計画検証委員会次第
② 川根本町総合計画検証委員会委員名簿
③ 総合計画KPI（目標指標）状況一覧表
④ 「総合計画」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一体化について

7 発言の内容

	（1. 開会）
	（2. あいさつ） 坂下経営戦略課長
	（3. 委員長あいさつ） 小泉委員長

	(4. 議事) (1) 総合計画・総合戦略の検証について 事務局説明
委員長	資料に示されていること以外でも、総合計画に関し、ご意見願う。
委員	学校が楽しいと思う児童生徒の割合について、義務教育学校の再編により変化が激しかった年。子どもたちは自然なかかわりができてきて、良い傾向にある。 川根高校入学生人数については、魅力づくりということで県の取組みがスタートした。義務教育学校も含めて今後考えていきたい。 文化会館の利用者数の減少について、文化会館で実施していた高齢者との交流事業を文化会館から会場を学校へ変更したため、利用者数は減少しているが、交流事業は継続しているため、数値だけでは判断できない見えない部分もあると思う。 人口減少について、毎年100人減少していることにショックを受けた。町の存続させるために、定住移住施策等は重要であると改めて感じた。
委員	観光交流客数についての減少理由は、言い訳すればコロナや災害となるが、観光客が来ていないことは事実である。町のキャパシティを考えて目標値の設定が必要。 人があふれる町にしたいのか、ゆとりのある観光地にしたいのか、町が目指す観光業・戦略を明確にしていく必要があると感じる。 また、新規創業者数に対して、廃業者数のカウントはない。実際、観光業の方がどれだけ廃業となっているか把握することで見方が変わると思う。
委員	人口減少については、事業継承ネットワークのアンケート結果によると、7割の方に後継者がいない結果が出ている。（息子に事業を継がせたくないと思う親が多い）かなり深刻な問題だと認識している。 また、町内に働き口がない。若い労働者がこの地区にいないことも人口減少の大きな要因だと思う。 地元から17人しか川根高校に進学していない。他はどこに行っているのか？中学生が川根高校に魅力を感じておらず、川根高校ではやりたいことが出来ないから他へ進学してしまう現状を分析し、地元川根高校に入学し卒業後、地元就職するという流れできれば良いと思う。 観光業については、家山駅はインバウンドで溢れている。家山駅からバスで川根本町に向かうが、宿泊できるキャパシティが当町にはないのが残念である。
委員	コロナ禍においても、これだけの結果が出ていることは驚いた。令和5年

委員	5月からコロナが5類に移行され、これからは観光業も伸びていくと期待したい。 交通事故発生件数については、高齢化が急激に進むと、交通事故件数も増加していくと危惧している。運転免許証を返納すると町営バスの助成券が交付されるが、デマンドタクシーの助成券に変更した方が使い勝手が良い。この町は車がないと生活できない。対象者にニーズ調査し、変更できるものは変えていっても良いのではないか。 今年の区長会の視察研修は、大井川鐵道の被災現場を検討している。現状を知ることで、何かできることを区長会としても検討していきたい。 子育て支援施設に関しては、共働きの家庭が大多数の中、保育園は0歳からの園児が増えているため、支援施設の利用者は減少傾向にあると感じている。1年間の育児休暇取得が多く、0歳児で保育園に預けている現状。育児休暇がもう少し長くなる必要がある。 また、保育士不足も課題の一つ。早めに募集をかけることが必要ではないかと感じる。 人口減少問題については、地元の高校生が川根高校に魅力を感じることが出来ず、やりたいことがあると、町外の高校へ進学してしまう。それに伴い、親も一緒に転出してしまうサイクルが出来上がっていると感じている。
委員	部活動については、部活動に入らない生徒もいる。理由としては、個人でクラブに所属していることが多いと感じている。 また、牧之原市や吉田町でも部活動が出来ない状況が発生していて、当町だけの問題ではない。 川根高校の存続については、生徒に川根高校に行かない理由を尋ねたところ、理由①として、「やりたいことができないため。」、理由②として「ずっと同じメンバーのため、違う関係を築きたい。」との回答が目立っている。
委員	伝統文化に関しては、ユネスコ認定後、徳山神楽へ若い伝承者が入りたいと希望してきている。また、当日の客層に変化が生じている。昔は地元に帰省した方が大多数であったが、現在は観光客が増加している。ただし、観光客が増加しているのに、観光として活かしきれていないのが残念だ。 今後は、町内の自然観察の案内者・ガイドをつけて観光業と結び付けていけたらと思う。 本年度実施した、ヤマセミの調査については、もっと町民にも町の自然環境に関心をもってもらえるような活動を続けていき、将来は大井川の環境改善を目指したい。 転出の主な理由を伺いたい。

事務局	仕事、結婚、就学、帰省が多い。
委員	転出の年代は？
事務局	20・30代だけで50%を占めている。
委員長	多くの団体の審議会や委員会の委員を担っているが、この町は実務に携わる立場で具体的な意見が多く、教育・福祉・自然分野等議論されていることは素晴らしい。 総合計画は全体を捕えようとするため評価の目安にはなるが、実際は地域にとってプラスになっているか等、町の影響を評価していく方が有効的である。 小山町では転入・転出者にアンケートを実施している。ポイント的に実態を把握することも有効である。
委員	空き校舎の利活用はどうなっているか？
事務局	現在検討中。廃校プロジェクトに応募しているが、全国に空き校舎が多くある中で、採択されることは難しい。利活用検討委員会において、引き続き、議論していく。 以上をもって、議事は終了とする。 (5. 閉会)

上記に相違ないことを確認する。

委員長 小泉 祐一郎